

## 体験活動がキャリア発達に及ぼす効果に関する研究

Effects of Hands-On Experiences on Career Development

巽 公 一

Kimikazu TATSUMI

拓殖大学工学部

Takushoku University

Faculty of Engineering

### 要 旨

本研究は、大学生を対象に、高校時代までに体験したこと及び高校卒業時の自己理解や進路意識について調査し、体験活動がキャリア発達に及ぼす効果について検討した。

その結果、①体験活動を通して家庭や地域で役割を担い、人や社会とかがかわることが、興味・関心を広げ、自己の適性を把握するなど自己理解能力を高めることにつながる ②生活体験、勤労・奉仕体験、地域・社会体験を多く行うことが、コミュニケーション能力を高め、リーダーを経験するなど人間関係形成能力を向上させることにつながる ③体験活動と、将来の職業への希望及び進路選択の目的意識との間には関連はみられない ことなどがわかった。

キーワード：体験活動，キャリア教育，自己理解，コミュニケーション力

## 中学生とその保護者の工業高校に対する意識調査

Investigation of Junior High School Students and their Guardians regarding their Awareness  
of Industrial High Schools

藤原 淑都\*                      田尾 智佳則\*\*  
Yoshikuni FUJIHARA      Tikanori TAO

- \* 広島県立広島工業高等学校      Hiroshima Prefectural Hiroshima Technical High School  
\*\* 広島県立呉工業高等学校        Hiroshima Prefectural Kure Technical High School

### 要 旨

経済状況が低迷する中、工業高校への求人状況は就職を希望する生徒の数を大きく上回っている。これは、企業が工業高校卒業生の可能性を高く評価していることの表れとして受け止めている。しかし、工業高校に進学してくる生徒は、工業に関する興味や関心、工業技術を学びたい、多くの資格を取りたいといった目的意識が、徐々に低くなってきた。

日本における高校進学率が98%を越える中、大半の中学生は普通科高校に進学し、多様な進路選択ができる工業高校に進学する割合が減少傾向にある<sup>(1)</sup>。岡山県高等学校工業教育協会が実施した「工業教育活性化に関するアンケート」(平成19年3月)の分析報告によれば、中学生の普通科の志望が高い理由として、まず、少子化により大学への進学希望者全入時代を迎えたことを挙げ、そして、工業高校からの進学が難しい大学などもあるが、進路決定を先延ばしにする傾向から普通科志向が強いとまとめている<sup>(2)</sup>。工業高校進学者の減少は、本県の工業高校だけに限らず、多くの工業高校が抱える長年の課題であり、このことへの対策として様々な取組みを行ってきたが、十分な成果は得られていない。

そこで、中学生や保護者の、工業高校についての理解や、受験高校を選択する際の理由などを把握することを目的に、県内中学校8校の第二学年中学生とその保護者を対象に工業高校に対する意識調査を実施し、分析を行った。

分析の結果から、中学生や保護者は、受験高校を選択するための情報が十分に入手できていない。よって、工業高校の教育内容や進路状況などを正確に理解していないことが明らかになった。このことから、適切な高校選択や入学志願者の増加に向けて、既存の学校説明会や体験入学などをさらに工夫・改善する。また、広報活動にも力を入れ、様々な機会を通じて、日々の教育実践とその成果を発信し、工業高校の状況やよさを周知する必要がある。

キーワード： 高学歴志向 普通科志向 工業高校に対する意識 工業高校の理解 高校選択

## 日本とサウディ・アラビア王国の工業高校生の意識に関する比較検討

Comparative Survey of Awareness of Students of Technical High Schools  
in Japan and the Kingdom of Saudi Arabia

堀 桂太郎\*    アルスヘイム サレイマン\*\*  
Keitaro HORI    Alsehaim SULAIMAN

\* 明石工業高等専門学校 電気情報工学科

Akashi National College of Technology, Department of Electrical and Computer Engineering

\*\* National Satellite Technology Center, King Abdulaziz City for Science and Technology,  
Kingdom of Saudi Arabia

### 要旨

これまで、日本の工業高校の教員が、サウディ・アラビア王国に工業技術教育の協力のために JICA 専門家として派遣された事例などが報告されている。しかしながら、これらの報告では、同国の教員をカウンターパートとした技術協力に焦点が当てられており、生徒の実態に関する記述はほとんど含まれていない。このため筆者らは、日本及び、サウディ・アラビア王国の工業高校で学ぶ生徒を対象にして、入学の動機や現在興味のある事柄、将来の目標などに関するアンケート調査を実施した。本論は、この調査を元に両国の工業高校生の意識を比較検討することで、各々の特徴などを見出し、今後の両国の工業技術教育に関する参考資料とする事を目的としている。アンケートの結果、学校の満足度、外国語への意識、自国の工業技術を担っていく意識の高さは、すべてについてサウディ・アラビア王国の生徒の方が上回っていることなどがわかった。

キーワード： サウディ・アラビア王国, 日本, 技術教育, 工業高校, 意識調査